

2021年1月7日

明石市工場緑地のあり方検討会 御中

地球 love 明石

代表 清 一葉

要 望 書

私たちは、明石市で子育てをしている母親たちを中心に、子どもたちが笑顔でくらす持続可能な地球を未来につなげていこうという思いで活動している団体です。2020年12月議会では、請願「SDGs 未来都市に選ばれた明石市として持続可能なまちづくりを求める請願」を提出し、議会の賛成多数で採択いただきました。そのような中で「明石市工場緑地のあり方検討会」において、工場緑地面積率緩和の議論が始まっていることを知りました。

そこで、私たちも総務常任委員会で見られた資料などを拝見したところ、3月議会では、経済面と環境面の調和が重要であることから、地域経済の発展とともに住み良い地域環境を維持するため、幅広く議論を行うことやスケジュールとして5回程度開催することが書かれていました。ところが、12月議会の資料では、緩和については市民の十分な理解が不可欠であることから、工場と周辺的生活環境との調和のための方策について検討を行うことやSDGsの経済・環境・社会の三側面から工場緑地面積率等の緩和について検討を進めるとしながらも、たった3回で方向性をとりまとめると書かれており、驚くとともに、とても心配しております。

私たちは、子育てしやすい住環境に魅力を感じて明石市で暮らしています。工場緑地面積率緩和の問題は企業だけでなく、明石市で子育てをする私たちにとっても大事な事柄です。明石市は、SDGs 未来都市に選定されていますが、検討会設置の趣旨にも書かれているように、SDGsとは、経済、社会、環境の三側面のバランスが大事です。だからこそ、経済だけを優先するのではなく、社会、環境にも配慮した方向性のとりまとめをしていただきたいと思えます。

そのためには、私たち子育て世代の市民の意見も聞いていただきたいことと、検討会において、しっかり時間をかけて丁寧で慎重な議論をお願いしたいことを検討会の皆さんに要望させていただきます。12月議会で採択いただきました請願書も添付させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

R2第13号

2020年11月30日

明石市議会

議長 千住啓介様

請願者

地球love明石

明石市桜町

代表 清 一葉

紹介議員

丸谷 聡子

梅田 宏希

楠本 美紀

吉田 秀夫

竹内 きよ子

家根谷 敦子

SDGs 未来都市に選ばれた明石市として 持続可能なまちづくりを求める請願

(請願の趣旨)

明石市は、緑に囲まれ、海も近く、身近な自然を感じながら、子育てができるまちです。私たちの目の前にいる子どもたちのために、この明石の自然を未来に残していくためにSDGs 未来都市に選ばれた明石市として、誰一人取り残さない持続可能なまちづくりを積極的に進めていただきたく、下記の項目について請願させていただきます。

(請願の項目)

1. SDGs 未来都市の取り組みとして、あかしSDGs 推進計画の策定をはじめ、誰一人取り残さない持続可能なまちづくりを進めるための政策を積極的に行ってください。
2. SDGs の目標13「気候変動に具体的な対策を」について、気候非常事態宣言をした明石市として、2050年温室効果ガス排出量実質ゼロを目指して、市民とともに具体的な取り組みを進めてください。
3. SDGs の目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」について、明石市の身近な自然を未来に残していくための具体的な取り組みを進めてください。
4. 明石市のまちを持続可能なものにしていくためには、SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」に示されている行政、市民、事業者のパートナーシップが重要です。明石市全体で、持続可能なまちづくりに取り組める体制づくりを進めてください。

(参考) 意見陳述原稿

SDGs 未来都市に選ばれた明石市として持続可能なまちづくりを求める請願について

地球 love 明石の清と申します。

本日は、このような発言の機会を与えていただきまして、本当にありがとうございます。地球 love 明石は、明石市で子育てをしている母親たちを中心に、子どもたちが笑顔でくらす持続可能な地球を未来につなげていこう、そういう思いで活動しています。気候保護マーチやビーチクリーン、環境活動家を招いての講演会など、楽しく地球環境を考える活動を積極的に行っています。

私自身も4歳の子どもの持つ母親ですが、明石の手厚い子育てへのサポートの元、美しい川や海、ため池、公園など豊かな自然の中で子どもが伸び伸び育っていく様子を日々、ありがたく感じて、子育てしています。

そのように生活の身近なところにある豊かな自然が大切にされている明石市で、私たちの目の前にいる子どもたち、そして、これから生まれてくる子どもたちが安心してくらすように、この明石の自然を未来に残していきたい、SDGs 未来都市に選ばれた明石市として、誰一人取り残さない持続可能なまちづくりを積極的に進めていただきたい、そういう思いで、初めて請願をさせていただきました。

今回の請願は、特に大きく4点のことをお願いしたいと思っています。

まず一つ目として、7月にSDGs 未来都市に選ばれた明石市ですが、その取り組みとして、SDGs 推進計画の策定をはじめ、誰一人取り残さない持続可能なまちづくりを進める政策についてスピード感をもって、積極的に行っていただきたいです。

二つ目として、特に SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」についてですが、3月に県内で初めて、国内でも屈指の早さで、気候非常事態宣言が出され、広報あかしなどでも大きく取り上げていただいたことで、市民からも注目されています。2050年温室効果ガス排出量実質ゼロを目指して、私たちも精一杯お手伝いしたいと思っています。2050年温室効果ガス排出量実質ゼロを目指して、私たちも精一杯協力したいと思っています。ただ、3月の宣言以降、具体的に、何もされていないように見えます。私たち市民は何をすれば良いのか、すごく焦っています。省エネや、ゴミを減らす工夫など、今すぐできることがあるはずですが、私たちは、子どもの将来を思い、地球環境について「できることから行動したい」と思い、私たちは活動していますが、まだまだ小さな活動です。ぜひ、行政が先頭に立って、市民の行く道を示していただきたいと思います。市民一人ひとりの行動が変われば、それはとても大きな力になるはずですが、ぜひとも、早急に、市民とともに具体的な取り組みを進めていただきたいと思っています。

三つ目は、近年、特に宅地化が進んで緑がどんどん少なくなっているように感じています。身近な自然の生きものの命が感じられるような公園やため池、農地などを守り、生きもののバ

ランス、多様性を維持し、ずっと安心して暮らせる街であって欲しいと思います。例えばプラスチックごみを増やさない取り組み、ペットボトルを使用しない取り組みなど、SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」について、まずは、明石市の身近な自然を未来に残していくために、今できることから具体的な取り組みを進めていただきたいと思います。

四つ目として、SDGsは、経済、社会、環境のバランスと言われていますが、一番大事なものは、地球環境です。議員の皆さまは十分おわかりのことと思いますが、人間が生産活動を続け経済を回していくためには、また健全な生活を続け、社会を安定させ続けるためには、地球の資源が必要不可欠だからです。今までの経済・社会の仕組みを続けていては、地球が持たなくなり人間の暮らしも脅かされる、だからこそSDGsが国連から出されたと思います。一人ひとりが知恵を出し合い、持続可能な地球の未来のあり方を考え、作っていく必要があります。だからこそ、明石市のまちを持続可能なものにしていくためには、SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」に示されている行政、市民、事業者のパートナーシップが重要です。事業者も巻き込み、明石市の一人ひとりが協力し、誰ひとり取り残さない持続可能なまちづくりに取り組める体制を積極的につくっていただきたいと思います。最後にになりましたが、先日の環境審議会で、市長から、持続可能なまちづくりについて、「明石市の未来を考える際、明石市だけが恵まれ豊かになるのではなく、全体として豊かになるという視点が必要であること、人間だけではなく、昆虫や鳥、森や海の生きもの全てにとって住みやすい環境を作っていこう」というようなご発言がありました。自分たちの周りだけが豊かでも、地球の裏側の人たちが搾取され格差が生まれていたり、自然環境が壊されている、そのような経済や社会は持続不可能です。市長がおっしゃった持続可能なまちづくりを現実のものとするためには、空間的、時間的に広い視野を持ち、新しい発想で取り組んでいく必要があります。このお話した4点のことを「あかしSDGs推進計画」にしっかり盛り込み施策を進めていただきたいと思います。これはもちろんですが、まずは、7月に選定されたSDGs未来都市明石として、具体的な取り組みを早急に、進めていただけますよう、お願いいたします。

どうか、私たち子育て中の母親たちの思いをおくみ取りいただき、この請願を採択していただけますよう、よろしくお願いいたします。